主体的に学び、豊かに表現できる生徒の育成
～共に学び、活用力を高める指導の工夫～（２年次）

郡山市立郡山第一中学校　（代表）校長　堀田　隆　　教諭　原　徳兆

１　研究の趣旨

本校におけるこれまでの研究と生徒の実態分析から、活用力、特に思考・判断したことをわかりやすく表現する力に課題があることが明らかになってきた。課題を解決するための力である活用力を高めることは、課題解決から生まれる「わかった、できた」の実感につながり、それが繰り返されることで学習することが楽しくなる。

よって、活用力を高めることは本校のめざす主体性に学ぶ生徒の育成につながると考え、以下のような仮説を設定し、本主題に迫った。

各教科の授業において、活用力を高める以下の手だてを講じれば、生徒の自己効力感や有能感につながり、主体的に学び、豊かに表現できる生徒を育成できるであろう。

⑴　意欲を高め、知識・技能を駆使できる課題設定と学習形態の工夫
⑵　円滑な思考と適切な判断をうながし、根拠をもって自分のことばや自分なりの工夫によって表現させる指導・支援
⑶　基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる工夫

２　研究の概要

⑴　手だて
①　意欲を高め、知識・技能を駆使できる課題設定と学習形態を工夫する。
②　円滑な思考と適切な判断を促し、根拠をもって自分のことばや自分なりの工夫によって表現させる指導・支援を行う。
③　基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる工夫を行う。

⑵　研究の目標
各教科の日々の実践において、主体的に学び、豊かに表現できる生徒を育成するために、各教科において仮説の有効性を実践的に明らかにする。

⑶　研究の方法
①　毎週、研究推進委員会を開催し、研究の方向性を確認するとともに、各教科において、研究主題をもとに教科の特質や課題をふまえた研究テーマを設定し、より具体化された形で実践研究を行う。
②　各教科、全教師による日常の共通実践と一人一授業を実施し、生徒の活動の記録（授業中の生徒の姿、発言内容、ノート・ワークシート、作品等）を分析し、手だての有効性を明らかにしていく。
③　研究のめざす生徒像をふまえて作成したアンケートを６月に実施し、現状分析を行う。さらに同じアンケートを１２月にも行い、変容を考察し、成果と課題を明らかにしていく。

３　成果と今後の課題

⑴　研究の成果
①　アンケートや授業の様子から、生徒たちが自分の意思や判断のもとに、主体的に学ぼうとしている様子が見て取れた。
②　全教科において表現力を育てることを目指して実践したことにより、相手意識をもって、よりわかりやすく適切に伝えようとする姿勢が育ってきている。
③　課題設定や学習形態の工夫により、生徒たちが目的意識をもって学習に取り組むことができた。また「思考ツール」や「ＫＪ法」といった手法も、生徒たちの主体的な学びをうながすうえで有効に機能した。

⑵　今後の課題
生徒の主体的な活動を推進するとき、目標と活動と評価が一体化した授業づくりが今後の課題となる。